

(広報資料)

平成27年度 交通事業決算概要

平成28年 8月3日
京都市交通局

担当:交通局 企画総務部 財務課(863-5080)

自動車運送事業

1 決算概要

○ 一般会計に頼らない「自立した経営」を堅持

- ・ 更なるお客様の利便性向上を図るなど、「攻めの経営」のより一層の推進とともに、「自立した経営」を引き続き堅持

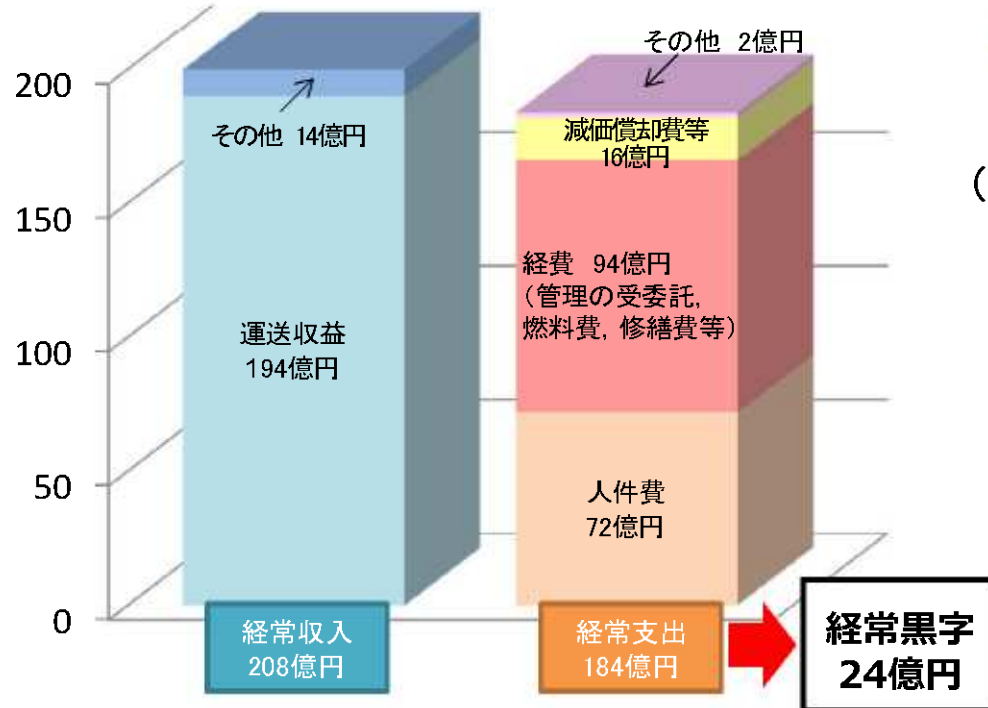
○ 1日当たりのお客様数は、前年度比1万2千人増の35万3千人

- ・ 路線・ダイヤの充実等により、前年度決算に比べ、1万2千人の大幅な増客を実現
- ・ 運送収益は、前年度決算に比べ、7億65百万円の増収

○ 経常損益は、24億円の黒字を確保

- ・ お客様数の増等により、前年度並みの24億円の経常黒字とし、平成15年度以降連続して黒字を確保
- ・ 累積の収支は、34億円の利益剰余金を計上

(1) 経常損益の状況

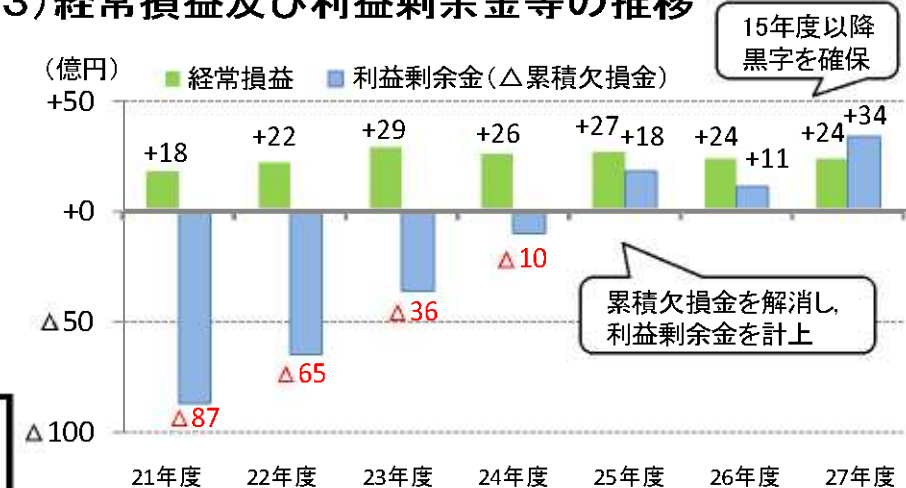


(2) お客様数の推移

年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
お客様数(旅客数)	311	314	314	321	326	341	353
対前年度増加数	-	3	0	7	5	15	12

(千人/日)

(3) 経常損益及び利益剰余金等の推移



2 主要事項

(1) 便利で快適な路線・ダイヤの編成

【28年3月実施の新ダイヤ】

- ア 地域主体のモビリティ・マネジメントと一体となった路線・ダイヤの拡充
- イ 京都鉄道博物館が開業する梅小路公園のアクセス強化
- ウ 京都駅南口駅前広場整備にあわせた路線・ダイヤの充実

(昼間時間帯を増便した70号系統及び69号系統)



(京都駅南口と梅小路公園・京都鉄道博物館前を結ぶ急行103号系統)

(2) 魅力あるバス待ち環境の創出

- 地域、事業者等の協力による新たなバス待ち空間「バスの駅」の設置(20箇所)



(バスの駅熊野神社前(京大病院)【28年3月設置】)

(3) お客様接遇の向上と安全運行の推進

- ア 「市バス・地下鉄お客様サービス向上サポート会議」による外部評価を踏まえた、全国一お客様サービスの実践
- イ 運輸安全マネジメントの取組に基づく安全運行の実施

(4) お客様サービスの向上

- ア IC定期券及びICカードによる乗継割引サービスの整備着手(29年4月サービス開始予定)
- イ 岩倉、修学院地域の均一運賃区間拡大(28年3月実施)
- ウ 京都駅前バスターミナル等における「京都市バスおもてなしコンシェルジュ」の配置

3 財政状況 (前年度決算からの増減)

(税抜額)

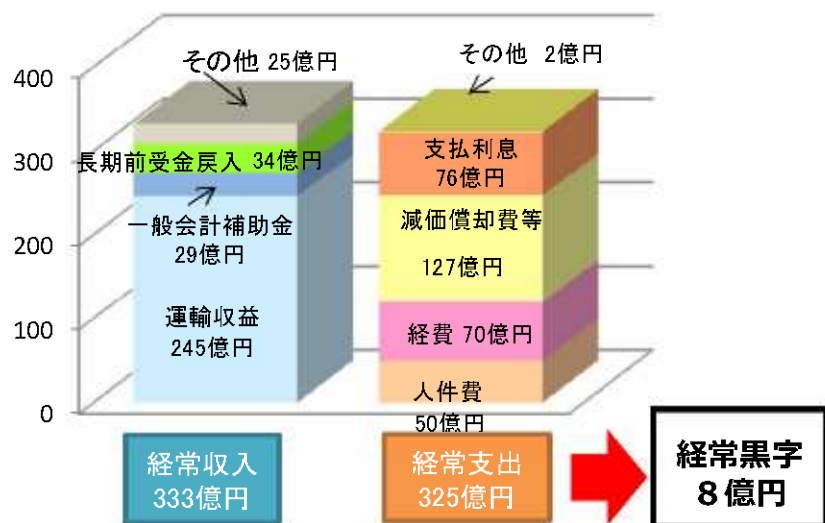
区分		26年度決算		27年度決算		差引増△減	
		億	百万円	億	百万円	億	百万円
経常損益	営業収益	196	56	204	07	7	51
	うち運送収益	186	41	194	06	7	65
	営業外収益	3	95	3	71	△	24
	うち一般会計補助金	1	52	1	04	△	48
	うち長期前受金戻入	2	03	2	16		13
	収入計	200	51	207	78	7	27
	営業費用	174	00	181	83	7	83
	うち経常人件費	67	20	68	83	1	63
	うち退職給付引当金繰入額	1	30	3	01	1	71
	うち経費(管理の受委託, 燃料費, 修繕費等)	92	34	93	76	1	42
うち減価償却費等	13	16	16	23	3	07	
営業外費用	2	45	2	14	△	31	
支出計	176	45	183	97	7	52	
差引	24	06	23	81	△	25	
特別損益	△39	07		0	39	07	
再差引(純損益)	△15	01	23	81	38	82	
その他未処分利益剰余金変動額	7	39		0	△7	39	
利益剰余金	10	58	34	39	23	81	
資本的収支	収入債金	18	85	12	58	△6	27
	うち補助金	16	65	10	17	△6	48
	うち補助	2	20		93	△1	27
	支出費金	34	95	28	04	△6	91
	うち建設改良費	24	60	16	53	△8	07
うち企業債償還金	8	35	9	51	1	16	
差引	△16	10	△15	46		64	
資金剰余額	7	38	29	65	22	27	
年度末企業債残高	60	83	61	49		66	

高速鉄道事業

1 決算概要

- **1日当たりのお客様数は、前年度に比べ1万3千人増の37万2千人**
 - ・ 2年連続で1万人を超える大幅な伸びとなり、運輸収益は前年度比10億円の増収
 - ・ 経営健全化計画に掲げる平成30年度の目標375千人まで残り3千人となり、達成が目前
- **経常損益8億円の黒字**
 - ・ 前年度に比べ17億円収支が改善し、開業年度以来の経常損益の黒字を達成(一般会計からの補助金29億円を含む)
 - ・ 現金収支の黒字は、過去最大の98億円に拡大(前年度比17億円増)
 - ・ 経営健全化計画を大きく上回る収支改善
- **全国地下鉄唯一の健全化団体からの脱却へ展望は見えつつも、依然、多額の資金不足(309億円)**
 - ・ 累積資金不足が309億円あるものの、資金不足比率は経営健全化基準の20%を下回る
 - ・ 平成29年度に、一般会計補助金収入が大きく減少し、再び20%を上回ることが見込まれるため、経営健全化出資金の繰入れ(平成27年度:73億円)がなくても安定的に20%を下回る見通しが立つまで、経営健全化団体を継続
- **企業債等残高は、なお約3,900億円にのぼる、依然厳しい経営状況** [ピーク時4,922億円(平成20年度)]

(1) 経常損益の状況

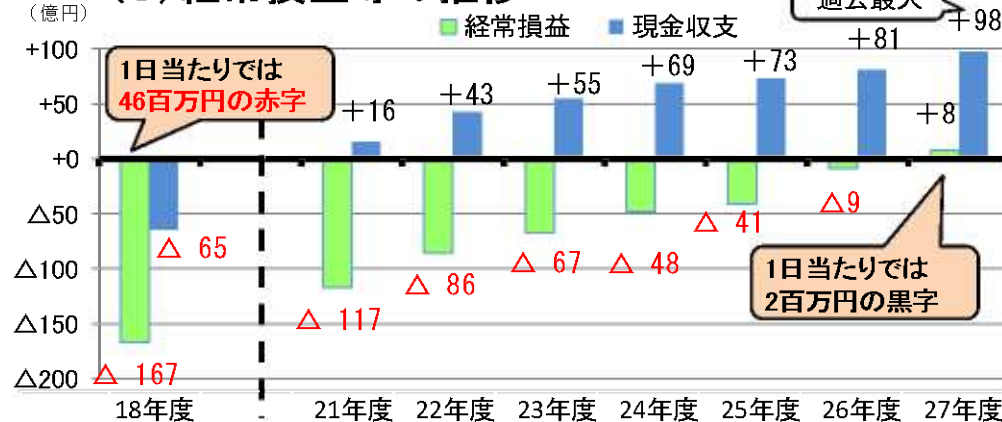


(2) お客様数の推移

年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
お客様数(旅客数)	327	330	334	339	348	359	372
対前年度増加数	-	3	4	5	9	11	13

(千人/日)

(3) 経常損益等の推移



2 主要事項

(1) お客様増加策

1日当たりお客様数**372千人!**
(前年度に比べ1万3千人増)

「地下鉄5万人増客推進本部」の体制による全庁を挙げた384件のお客様増加策(駅周辺のまちづくりなど)



リニューアル後のルームシアター 京都

(2) 駅ナカビジネスの積極的展開

「コトチカ御池」の拡充(28年1月)など



(3) お客様接遇の向上と安全対策

- ア 「市バス・地下鉄お客様サービス向上サポート会議」による外部評価を踏まえた、全国一お客様サービスの実践
- イ 烏丸線可動式ホーム柵の設置
(27年10月四条駅, 12月京都駅の供用開始)



(4) お客様サービスの向上

- ア ICカード利用の環境整備
- イ 外国人観光客を含めたわかりやすい案内など



ICカード
チャージ
機能付き
券売機



地下鉄ピクトグラムによる案内サイン



(5) 一般会計からの支援

- ア 経営健全化対策出資金の受け入れ(73億円)
- イ 経営健全化計画で見込んだ高資本費対策補助金(任意補助)の繰入れ(8億円)を引き続き, 見送り
- ウ 経常収入に制度補助金を繰入れ(29億円)

3 財政状況 (前年度決算からの増減)

(税抜額)

区分		26年度決算(A)		27年度決算(B)		差引増△減 (B-A)	
		億	百万円	億	百万円	億	百万円
経常損益	営業収益	258	65	268	97	10	32
	うち運輸収益	235	51	245	22	9	71
	営業外収益	61	23	63	70	2	47
	うち一般会計補助金	25	74	29	39	3	65
	うち長期前受金戻入	34	85	33	74	△1	11
	収入計	319	88	332	67	12	79
	営業費用	244	65	246	48	1	83
	うち経常人件費	50	56	50	01	△	55
	うち退職給付引当金繰入額	1	49		41	△1	08
	うち経費(動力費・修繕費等)	66	65	69	55	2	90
	うち減価償却費等	125	95	126	51		56
	営業外費用	83	85	77	71	△6	14
	支出計	328	50	324	19	△4	31
	差引	△8	62	8	48	17	10
現金収支	80	73	97	51	16	78	
特別損益	△36	33		0	36	33	
再差引(純損益)	△44	95	8	48	53	43	
その他未処分利益剰余金変動額	404	17		0	△404	17	
△累積欠損金	△3,108	99	△3,093	22	15	77	
資本的収支	収入	242	22	286	00	43	78
	うち健全化出資金	73	46	72	73	△	73
	支出	324	10	392	89	68	79
	うち建設改良費	82	44	103	58	21	14
	うち企業債償還金	216	72	264	36	47	64
差引	△81	88	△106	89	△25	01	
△累積資金不足	△309	17	△309	18	△	1	
資金不足比率	14.8%		-		△14.8ポイント		
年度末企業債等残高	4,066	55	3,910	69	△155	86	